

○基礎形式 : 当該施設の基礎形式を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・埋め込み型
- ・ベースプレート型
- ・添架型
- ・その他

○支柱基部リブ形状 : 当該施設の基礎形式がベースプレート型の場合、支柱基部リブ形状を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・三角リブ
- ・U字リブ
- ・その他
- ・無

○路面境界部の状況 : 当該施設の支柱基部の路面境界部の状況を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・コンクリート
- ・アスファルト
- ・土砂
- ・ベースプレート露出
- ・インターロッキング
- ・その他

○灯具の種類 : 当該施設が道路照明施設の場合、灯具の種類を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・水銀灯
- ・ナトリウム灯
- ・蛍光灯
- ・LED
- ・その他

○標識設置枚数及び標識番号 : 当該施設に標識板が添架されている場合、すべての標識枚数及び標識番号を記入する。(ただし、占用物件は除く)
 標識板が複数枚設置又は添架されている場合は、主たるものの標識番号を3つまで記入する。
 なお、当該施設に標識等の占用物件が添架されている場合は、備考欄に枚数等を記載する。

【記入例】

	<第1欄>	<第2欄>
標識設置枚数 及び標識番号	5	108の3、118の2-A、204

○標識板の取付形式 : 取付形式を以下より選択し、記入する。
 なお、取付形式が異なる複数枚の標識が設置されている場合は、取付形式を3つまで記入する。

【選択項目】

- ・固定式
- ・吊下式
- ・その他

※吊下式とは、横梁から下側へヒンジ構造で標識板を吊り下げて設置する方式

<参考> 吊下式の例



【記入例】

	<第1欄>	<第2欄>	<第3欄>
標識板の 取付形式	吊下式	固定式	

○標識板の落下防止対策 : 対策の実施状況について以下より選択し、記入する。
 なお、「有（全部、一部）」「今回実施（全部、一部）」の場合は、具体的な対策内容を記入する。

- 【選択項目】**
- ・有（全部）
 - ・有（一部）
 - ・今回実施（全部）
 - ・今回実施（一部）
 - ・無

【記入例】

	＜第1欄＞	＜第2欄＞
標識板の落下 防止対策	有	落下防止ワイヤー

○ゆるみ止め対策の有無 : ボルト・ナット等のゆるみ止め対策の実施状況について以下より選択し、記入する。
 なお、「有（全部、一部）」「今回実施（全部、一部）」の場合は、具体的な対策方法を記入する。

- 【選択項目】**
- ・有（全部）
 - ・有（一部）
 - ・今回実施（全部）
 - ・今回実施（一部）
 - ・無

【記入例】

	＜第1欄＞	＜第2欄＞
ゆるみ止め 対策の有無	有（一部）	緩止ナット ダブルナット

○合いマーク : ボルト・ナットの合いマークの実施状況を以下より選択し、記入する。
 なお、一部の場合は、実施箇所を具体的に記入する。

- 【選択項目】
- ・有（全部）
 - ・有（一部）
 - ・今回実施（全部）
 - ・今回実施（一部）
 - ・無

【記入例】

	＜第1欄＞	＜第2欄＞
合いマーク	有（一部）	添接板、橋台アンカーボルト・ナット

○制振装置の有無 : 当該施設の制振装置の設置状況を以下より選択し、記入する。
 なお、「有」「今回実施」の場合は、その具体的な方式を記入する。

- 【選択項目】
- ・有
 - ・今回実施
 - ・無

【記入例】

	＜第1欄＞	＜第2欄＞
制振装置の有無	有	チェーンダンパー

○柱基部排水性向上対策 : 当該施設の柱基部の排水性向上対策の実施状況を以下より選択し、記入する。次の中から選択して記入する。
 なお、「有」「今回実施」の場合は、その具体的な対策内容を記入する。

- 【選択項目】
- ・有
 - ・今回実施
 - ・無
 - ・当該無し

【記入例】

	<第1欄>	<第2欄>
柱基部排水性向上対策	有	柱基部に排水勾配を設置

- 設置年月 : 完成年月を記入する（年は西暦を記入）。
なお、完成年月が不明の場合は、第1欄に「不明」と記入する。

【記入例】

	<第1欄>	<第2欄>
設置年月	1965年	9月

- 備考 : その他構造に関する情報、占用物件の情報等を記入する。

(4) 設置環境情報

- 設置環境 : 当該施設の設置環境を以下より選択し、記入する。

【選択項目】
・一般部
・橋梁部
・トンネル
・横断歩道橋
・その他

- 海岸からの距離 : 最も近い海岸までの距離を以下より選択し、記入する。

【選択項目】
・100m未満
・100m～1km未満
・1km～5km未満
・5km～20km未満
・20km以上

- 融雪剤散布区間 : 当該施設設置箇所が、融雪剤（凍結防止剤）散布区間の場合は「該当する」、散布区間で無い場合は「該当しない」と記入する。

- 風規制実施区間 : 当該施設設置箇所が、風や吹雪等による通行止め規制が規定されている規制区間に有る場合は「該当する」、規制区間外の場合は「該当しない」と記入する。

- 防雪対策実施区間 : 当該施設設置箇所が、防雪対策（吹だめ柵、吹払い柵、防雪林、スノーシェルター等）が設置されている区間の場合は「該当する」、設置されていない区間の場合は「該当しない」と記入する。

- センサス年度
センサス区間番号
交通量 : 当該施設が設置されている路線が、全国道路・街路交通情勢調査（以下、「センサス」という。）対象路線の場合に記入する。
センサス区間番号は10桁又は11桁、交通量は、24時間交通量を記入する。

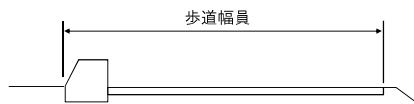
【記入例】

センサス年度	H22	センサス区間番号	123456878901	交通量	1234 台/24h
--------	-----	----------	--------------	-----	------------

- 道路幅員 (m) : 道路幅員は、「車道幅員+路肩」とし、少数点以下1位まで記入する。

- 歩道幅員 (m) : 歩道幅員は、「縁石前面」から「歩道舗装端又は敷地境界」間とし、少数点以下1位まで記入する。
ただし、当該施設設置箇所に歩道がない場合は、「無」と記載する。

<参考> 歩道幅員の考え方



- 緊急輸送道路指定の有無 : 当該施設の設置箇所（路線）の緊急輸送道路指定の「一次」「二次」「三次」「無」を記入する。

- 通学路指定の有無 : 当該施設の設置箇所（路線）の通学路指定の「有」「無」を記入する。
なお、通学路は、交安法指定通学路の他、学校が独自に指定している通学路を含む。

- 備考 : その他設置環境に関する情報等があれば記入する。

(5) 点検情報

○点検種別

: 実施した点検の種別を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・初期点検
- ・定期点検（詳細）
- ・定期点検（中間）
- ・異常時点検
- ・特定の点検計画に基づく点検

○点検方法

: 点検方法を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・近接目視
- ・近接目視＋非破壊検査
- ・外観目視
- ・その他

※門型式の道路標識・道路情報提供装置については、「近接目視」または、「近接目視＋非破壊検査」のどちらかを選択する。

※その他を選択した場合は、備考欄に詳細を記載する

○点検年月日及び
前回点検年月日

: 今回及び前回の点検実施年月日を記入する。

【記入例】

	<第1欄>	<第2欄>	<第3欄>
点検年月日	2014年	4月	1日

※設置年については、西暦で記入する

○点検員
(所属・氏名)

: 点検を実施した点検員の所属および氏名を記入する。

なお、所属については、直営の場合は課名・班名など、業務委託の場合は会社名等を記入する。

○備考

: 非破壊検査の種別やその他点検に関する情報等があれば記入する。

○更新履歴

: 更新履歴がある場合「有」、無い場合「無」、不明の場合「不明」を記入する。

○前回設置年月

: 更新履歴「有」の場合、前回設置年月を記入する。

2. 点検結果票

(1) 点検結果

- 対象有無 : 当該施設について、点検結果票に記載された部材の点検箇所の「有」「無」を記入する。
 なお、部材の対象は、道路管理者が管理しているもののみとし、占用物件（標識等）は対象外とする。
- 点検状況 : 対象有無で「有」とした部材について、点検を実施した場合は「済」、実施していない場合は「未」を記入する。
- 損傷程度の評価 : 各部材の点検箇所について、変状の種類毎に損傷程度の評価区分（a, c 又は e）を記入する。
 また、点検時に補修・補強等の措置（応急措置含む）を行った場合は、措置後の欄に措置後の補修・補強等後の評価区分を記入する。
- 部材の健全性の診断 : 損傷程度の評価、損傷の原因や進行可能性、損傷が構造物の機能に与える影響を踏まえ、部材としての判定区分（Ⅰ～Ⅲ）を記入する。
- 施設の健全性の診断 : 部材の健全性の診断の結果などを踏まえ、当該施設全体としての判定区分（Ⅰ～Ⅲ）を記入する。

【記入例】点検箇所・部材及び施設の健全性の診断

部材及び点検箇所			対象有無	点検状況	損傷程度の評価 変状の種類												対策の要否	部材の健全性の診断
					鋼部材						コンクリート部材		共通					
部材等	点検箇所	記号			き裂	ゆがみ・脱落	破断	腐食	変形	コンクリート部材		漏水	その他					
					高検時	措置後	高検時	措置後	高検時	措置後	高検時	措置後	高検時	措置後			高検時	措置後
支柱	支柱本体	Pph	有	済	a			c	a								II	
	支柱継手部	Ppj	有	済	a	a	a	c	e	a								
	支柱分岐部	Ppd	無															
	支柱内部	Ppi	無															

ボルトが腐食し脱落していたが、交換・再締め付けした。e→a

支柱全体としての診断結果

その他	バンド部(共架型)	Xbn	無														
	配線部分	Xwi	無														
	管理用の足場・作業台	-	無														
																施設の健全性の診断	I

施設全体としての診断結果

(2) 所見 (その他特記事項)

判定区分だけでは表現できない事項や詳細調査の必要性の有無、引き継ぎ事項等について記入する。

(3) 点検予定

点検ができなかった部材、その理由、点検予定時期、点検実施方法について記入し、必要に応じて写真、ポンチ絵等を添付する。

3. 損傷記録票

部材の健全性の診断において、点検箇所別の変状の種類に対する判定区分が、1つでもⅠ～Ⅲと判定された部材毎に「損傷記録票」を作成する。

(1) 部材名称

変状の種類に対する判定区分が、1つでもⅠ～Ⅲと判定された点検箇所を記入する。

(2) 損傷程度の評価

該当部材について、点検結果票の変状の種類毎に損傷程度の評価区分 (a, c, 又は e) を全て記載する。

(3) 措置 (応急含む)

○実施内容 : 点検時に補修・補強等 (応急含む) を実施した場合、補修・補強等の内容を記入する。

【記入例】

- ・ボルトの再締め付け
- ・浮き錆の除去 等

○未実施 (理由) : 点検時に措置を行わなかった理由を記入する。

【記入例】

- ・補修方法を検討する必要がある
- ・携行した資機材では対応ができなかった。 等

○予定時期 : 実施する予定がある場合、その時期を記入する。

【記入例】

- ・平成 26 年度中

○予定内容 : 補修内容等が決まっている場合、その内容を記入する。

【記入例】

- ・支柱基部に根巻きコンクリートを施工 等

(4) 特記事項

必要に応じて、損傷状況や詳細調査の必要性の有無等を記入する。

4. 板厚調査結果記録票

腐食等変状が見られ、板厚調査を実施した場合に「板厚調査結果記録票」を作成する。

(1) 測定厚

板厚調査を実施した部材・調査箇所・測定位置ごとに測定した厚さ(0.1mm 単位)を記入する。測定位置は調査箇所の円周上 90° ごと 4 点を、測定回数は 2 回を標準とし、これら 4 点×2 回の最小値をあわせて記入する。

(2) 管理板厚

管理板厚とは今後 5 年の間に限界板厚に達する可能性のある板厚のことで、管理板厚=限界板厚+腐食速度×5 年 により求め記入する。腐食速度は 0.1mm/年を標準とし、管理板厚は限界板厚+0.5mm を標準とする。

(3) 限界板厚

限界板厚は設計荷重に対して許容応力度を超過しない板厚のことであり、付録—5 を参考に

して記入する。

(4) 損傷程度の評価

該当部材について、板厚調査結果による評価区分を記入する。

評価区分については、点検要領 5. (1) 板厚調査による評価区分が参考となる。